

9. 国際教養教育院 カリキュラム・ポリシー

国際教養教育院

国際教養教育院は、双方向的な国際理解促進に貢献する人物を育成するため、学部・研究科の国内学生のみならず、様々な背景・身分の留学生に対し、教育プログラムを提供する。「グローバル教育プログラム」では、英語による国際教養科目を提供する。また、「日本語・日本文化教育プログラム」では、日本語運用能力の向上および日本文化に対する理解を深める科目を提供する。

「グローバル教育プログラム」カリキュラム・ポリシー

【「グローバル教育プログラム」編成・実施の方針】

「グローバル教育プログラム」では、以下の方針で、カリキュラムを編成する。

【グローバル教育プログラム編成の考え方】

全学共通教養教育科目の国際教養科目群の一環として、各学部の専門を超えた様々な学問領域の観点から、日本と世界が直面する課題を探究することにより、国際的かつ学際的な学識を身につけた人材の育成を目指す。

【学修内容及び学修方法】

- ・英語による授業を提供する。(グローバルに活躍するために必要な英語運用能力の育成(知識・技能))
- ・人文科学および社会科学、さらに自然・人間科学に亘る様々な科目を提供する。(多様な事象に関するグローバルな視点と幅広い知識の習得(知識・技能))
- ・多様なバックグラウンドを持つ、様々な国・地域からの学生に共修の場を提供する。(言語・文化の相違を超えて活発に交流できる力の育成(主体性・多様性・協働性))
- ・少人数クラスのインタラクティブな授業を提供する。(多様な価値観やものの見方に直に触れ合いながら、他者の意見を尊重しつつも、主体的に考え、英語によるレポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通じて積極的に意見を発信する能力の育成(思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性))
- ・国外での研修機会を提供する。(海外フィールドワーク科目「Freshman “Go Global” Program」「Mid-college “Be Strong” Program」の履修により、積極的に海外に赴き、多様な言語・宗教・慣習に関する知見を広めながら、現代世界の動向を的確に把握するとともに、世界の中で日本が果たすべき役割について考究する態度の涵養(知識・技能、主体性・多様性・協働性))

【学修成果の評価方法】

シラバス等に記載されている学習目標の達成度に従い、成績評価の方法（試験や課題、プレゼンテーション、レポートなど）を用いて評価する。

「日本語・日本文化教育プログラム」カリキュラム・ポリシー

【「日本語・日本文化教育プログラム」編成・実施の方針】

「日本語・日本文化教育プログラム」では、以下の方針で、カリキュラムを編成する。

【日本語・日本文化教育プログラム編成の考え方】

留学生に対して、日本語運用能力を向上させ、日本文化に対する理解を深め、さらには、相互的な国際理解促進に貢献する人物を養成するため、学生の日本語学習段階、日本留学の目的に応じたカリキュラムを編成する。

【学修内容及び学修方法】

・日本語学習段階を 9 段階（初級前期・初級後期・初中級・中級前期・中級後期・中上級・上級前期・上級後期・超上級）に分け、学習者の日本語学習段階や学習の目的に応じた**日本語科目**を提供する。（知識・技能、思考力・判断力・表現力）

・上記の学習内容を補完・強化する目的で、**日本語演習科目**を提供する。（知識・技能、思考力・判断力・表現力）

・講義や演習を通して、国際文化・社会についての理解を深化させることを目的として、**日本事情科目**ならびに**国際事情科目**を提供する。一部の科目は、海外に向けた日本文化の発信および相互的な国際理解の促進を図ることを目的とし、国内学生と留学生がともに学ぶ科目として提供する。（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）

【学修成果の評価方法】

シラバス等に記載されている学習目標の達成度に従い、成績評価の方法（試験や課題、プレゼンテーション、レポートなど）を用いて評価する。